

2021年6月1日

## JAMは日本コンベヤ労働組合を支援し、TCS等株主提案に反対する

産業別労働組合JAM

書記長 中井寛哉

産業別労働組合JAMは、TCSホールディングスならびにこのグループによる労働組合破壊、従業員軽視の政策に10年にわたる闘いを繰り広げてきた。

そして、現在もTCSホールディングスによる企業支配に、多くの仲間が苦しんでいる。

JAMとJAMに集う仲間は、これまでのTCSホールディングス等による労働組合への支配介入と破壊を断じて許すことはできない。

この間、日本コンベヤ労働組合にとどまらず、TCSグループの労働組合敵視と嫌がらせにより、JAMに加盟する3つの労働組合が解体されようとしている。具体的には一時金をめぐる裁判闘争や、労働組合への支配介入、ユニオンショップ協定の破棄、労働委員会による救済命令の不履行、組合活動への圧力や単組役員への恫喝など、労働組合の弱体化を狙った攻撃を現在も加えている。

こうした数々の不当労働行為（労働組合法第7条違反）と従業員軽視の事実から、多くの組合員が経営者と会社に見切りをつけ、労働組合だけでなく職場からも去っていったのである。

TCSホールディングスが、いかに「全従業員の皆様が安心して働ける環境を提供し、上場企業として健全な発展を遂げていただきたい」などと甘言蜜語を掲げても、これを信用することはできない。

今回のNCホールディングス経営陣による思い切った決断と、日本コンベヤ労働組合の闘いは、TCSグループの支配に苦しむ働く仲間にも勇気と希望を与えるものである。

JAMは日本コンベヤ労働組合の「反対声明」を全面的に支持することを表明する。

またJAMにとどまらず連合の仲間にも日本コンベヤ労働組合の支援の輪を広げるとともに、健全な労使関係の構築と、安心して働ける職場の実現を目指していく。

以上